

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2007年 1月 26日

I 概要

実践団体・担当者名	奈良県立王寺工業高等学校 (担当者： 市原 定典)	
連絡先	電話 0745-72-4081	E-mail master@oji-ths.ed.jp
プランタイトル	防災徒歩帰宅チャレンジ	
目的	<p>阪神大震災から11年がたち、一昨年は中越地震、スマトラ地震による大津波など大災害が起きている現代において防災教育が必要であると考えられる。もし今、奈良県で大規模な直下型の地震が起こり、ライフラインが止まった場合、わたしたちはどのように行動するべきかを考える必要がある。生徒ひとりひとりが災害時における行動の重要性を認識し、「防災徒歩帰宅チャレンジ」を体験して学習を深める。また、災害時に生徒自らが判断し適切な行動を取れるようにする。</p>	
プランの概略	<p>本来自宅まで帰宅させるのが目標であるが、生徒の安全管理上それぞれ方面別に生徒が希望する距離や最寄り駅を目標にあらかじめ設定した道順で歩く。当日、怪我などで参加できない場合は、体育館で行われる救急救命講習に参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災講演会 ・ 防災学習ルーム ・ 防災講演会 ・ 防災学習ルーム ・ 防災徒歩帰宅チャレンジ 事前ルーム ・ 防災徒歩帰宅チャレンジ ・ 防災徒歩帰宅チャレンジ 事後ルーム 	
プランの対象と参加人数	<p>全校生徒（1、2、3年生） 参加できない生徒は、救急救命講習に参加</p>	
実施日時	2006年12月12日（火）	
主な実施場所	最終目的地までの奈良県北西部から南西部の主な幹線道路。もしくは、幹線道路に沿った道路	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	奈良県教育委員会、奈良県地方気象台、奈良県各管轄警察署、奈良県西和消防署、コンビニエンスストア、ガソリンスタンド、公共施設
	連携したきっかけ・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災の講演会をする際に講師依頼をするため ・ 防災徒歩帰宅チャレンジ中に生徒の安全を確保し、緊急事態へ対応するため。
	連携団体へのアプローチ方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師派遣依頼の文書を各機関に送付した ・ コンビニエンスストア・ガソリンスタンドについては、直接口頭で趣旨説明を行った。
	連携団体との打合せ回数	<p>講師依頼については各5回程度。 奈良県各管轄警察署、奈良県教育委員会、各3回</p>
	連携団体との役割分担	チャレンジ中に各管轄の警察署が安全確保のため巡視。

II プラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	59名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	① 市原 定典 (生徒指導部部長) 責任者 ② 井上 和彦 (生徒指導部副部長) 企画
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	2006年3月～2007年11月
	立案時間	毎月1回
	上記のうち打合せ回数	10回
プラン立案で注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間をとおして、効率的な学習計画になるよう、学習内容を立案しました。 ・ 防災徒歩帰宅チャレンジ最終目的地の決定においては、在校生の通学状況を把握し、出来るだけ多くの生徒に共通に成るように決定しました。 ・ 緊急事態への対応を出来る体制づくりをしました。 	
プラン立案で苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な防災徒歩帰宅チャレンジにおけるルートの決定に際しては、生徒の安全を最優先に、交通状況、信号の有無、歩道の有無等を全て詳細にチェックするのに、時間と体力を使いました。 ・ 生徒への危険ポイントの周知徹底、交通ルールの指導、危険予測の指導については、全校生徒がしっかり、理解しチャレンジプランを実践出来るようにしました。 	

III 実践にあたっての準備

準備に関わった方と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	10名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 市原 部長 企画 井上 副部長 渉外 阪上 原田 森村 制作・広報 下元 胡内 上村 古賀 宗形
準備に要した日数・時間	準備期間	2006年3月～2006年12月11日
	準備総時間	5時間×16回 コース下見 2時間×35回
	上記の内打合せ回数	週1回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	奈良県教育委員会
	どのように働きかけたか	届出を提出して支援のお願いをした
	結果	協力を得ることができた

地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	気象庁, 警察署, 消防署, 各ルートのガソリンスタンドやコンビニエンスストア
	どのように働きかけたか	・各機関に講演の依頼をした ・各ルートのガソリンスタンドやコンビニエンスストアに協力してもらえよう文書を手渡して配布してまわった。
	結果	・講演会で講師を派遣してもらえた ・当日の休憩時にトイレを借りた
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	全生徒の保護者・育友会
	どのように働きかけたか	保護者に徒歩帰宅チャレンジの旨を伝える文書を配布した
	結果	協力を得ると共に、家庭で話し合う機会を持ってもらえた
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	ファイル 飲料水 拡大プリンタのインクと紙 レインコート
	入手先・入手方法	・文具店に注文 ・各店舗に注文
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	本プランを実行するために必要不可欠であったから
参加者の募集	募集方法	・全生徒に対してアンケートを実施した
	募集期間	18年10月27日 ~ 11月6日
	参加予想人数	450名
	実際の参加人数	605名
	募集方法の成功点	全生徒を対象として希望をとったこと
	募集方法の失敗点	学校から近い目的地を希望する生徒が集中した
準備で苦労した点・工夫した点	<p>徒歩帰宅チャレンジで生徒が歩くコースの選定。</p> <p>安全のため、迂回路になっても歩道が確実に確保された道を選択した。また、途中の休憩ポイントや、緊急事態に対応するためのルート上におけるコンビニエンスストアやガソリンスタンドにおいては、直接口頭で趣旨説明をして協力依頼をおこなった。</p>	

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月			
12月			
2006 1月			
2月			
3月	企画内容の計画	関係機関等への協力依頼	
4月	準備委員会の設置	計画内容の作成	
5月	防災講演会(全校生徒・職員対象)	講演事前打ち合わせ・準備 詳細ルート計画(ルート1 現地下見)	講演依頼(5月31日実施)
6月	職員研修(中間考査中) 防災学習ホ-ム-ム研修(担任対象) 防災学習ホ-ム-ム	詳細ルート計画(ルート2 現地下見)	防災学習ホ-ム-ム(6月14日実施)
7月		詳細ルート計画(ルート3 現地下見)	
8月		必要装備等準備	
9月	地域・関係諸団体等へ協力依頼	詳細ルート再検討(ルート1 現地下見)	
10月	講演依頼	講演事前打ち合わせ・準備 詳細ルート再検討(ルート2 現地下見)	
11月	防災講演会(全校生徒・職員・保護者対象) 防災学習ホ-ム-ム研修(担任対象) 防災学習ホ-ム-ム	地図・看板・資料等の準備 詳細ルート再検討(ルート3 現地下見) 防災学習ホ-ム-ム指導案・配布資料作成	防災講演会(11月1日実施) 防災学習ホ-ム-ム(11月15日実施)
12月	全ルート最終確認 職員研修(実施にあたっての注意事項等) 避難訓練(校内安全教育) 防災徒歩帰宅チャレンジ事前ホ-ム-ム 防災講演会(全校生徒・職員対象) 防災徒歩帰宅チャレンジ	講演事前打ち合わせ・準備 職員・生徒配布用資料(実施要項、保護者案内、コース地図、班別メンバー表、緊急連絡先入り名札)の作成 雨具の準備	防災徒歩帰宅チャレンジ事前ホ-ム-ム(12月11日実施) 防災講演会 防災徒歩帰宅チャレンジ(12月12日実施)
2007 1月	実施報告書の作成 防災徒歩帰宅チャレンジ事後ホ-ム-ム 研修 防災徒歩帰宅チャレンジ事後ホ-ム-ム	防災徒歩帰宅チャレンジ事後ホ-ム-ム指導案・配布資料作成	防災徒歩帰宅チャレンジ事後ホ-ム-ム(1月30日実施)

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	防災徒歩帰宅チャレンジ
実施日	12月12日
所要時間	45分×4
達成目標	学校より自宅まで徒歩で帰宅するチャレンジを実施して、震災時に徒歩で帰宅することの困難や危険についての理解を深め、自宅で徒歩で帰宅するかどうかの判断材料を考えさせる。
生成物	
進め方 (箇条書き)	<ol style="list-style-type: none"> 1、事前に生徒にアンケートを取り、今回のチャレンジの意義を認識させ、コースを設定させる。 2、それぞれのコースを把握し、実際に震災が起こったとの想定のもとに注意すべき点を考えさせる。 3、コース毎に班を作り、それぞれの班にリーダーを置く。 4、それぞれのコース別に学校を出発させる。 5、事前に考えた注意すべき点を見つけながら徒歩で目的地を目指す。 6、到着 7、実際に歩いてみた後に、気付いたことをアンケートで書かせる。
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別地図 ・緊急連絡先入り名札 ・班別名簿 ・緊急用飲料水 ・雨具 ・デジカメ
場所	本校より奈良、橿原神宮、御所の主要3コース。

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	防災講演会「地震に関する知識について」	防災ホームルーム	防災講演会「震災をどう生きてきたのか、災害にどう備えるのか」
実施日	5月31日	6月14日	11月1日
所要時間	45分	45分	45分
達成目標	地震について(メカニズム等)の理解を深める。	地震の基礎知識を学ぶ。	災害を生き抜くための心構えを学ぶ。
生成物			
進め方 (箇条書き)	<ol style="list-style-type: none"> 1、地球内部構造とプレートテクトニクス。 2、プレート境界付近(プレート間)の地震と津波。 3、陸域の浅い地震 4、地震用語(断層、震度、マグニチュード、その他) 5、奈良県に影響を及ぼす災害地震について 6、地震が起きたら 7、津波から命を守るために(ビデオ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地震に関する知識について」防災講演会について復習・確認をし、地震のメカニズムなどを考える。 ・奈良県で発生する地震を考える <p>地震発生時の行動パターンについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県が地震災害と無縁で無いことを確認し、地震に備えることの大切さを考える。 ・家庭での防災についての話し合いの必要性を考える。 ・地震発生したときの可能な役割について考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1、阪神淡路大震災を生き延びた被災者の方に聞く、震災の実際。 2、Survivor となる防災教育。 3、Supporter となる防災教育 4、市民性を育む防災教育
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーン・プロジェクタ ・マイク ・ノートパソコン 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員配布用資料プリント(HR指導案、奈良県学校地震防災教育プログラム) ・生徒配布用資料プリント(地震のしくみ、地震発生! そのときどうする、わが家の防災メモ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒配布用講演会資料プリント(1枚)
場所	教室	体育館	体育館

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	防災ホームルーム	防災講演会「防災について」
実施日	11月15日	12月12日
所要時間	45分	45分
達成目標	防災徒歩帰宅チャレンジの意義について理解する。	防災徒歩帰宅チャレンジの意義を再認識する。
生成物		
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災徒歩帰宅チャレンジの意義を考える ・ 震災発生時、帰宅困難者になったという想定のもとで、その時自分はどのような行動をとれば良いのかを考える。 ・ 生徒達に帰宅コースの地図を配布する。 ・ 震災発生後に徒歩で帰宅するとなったとき、どのような危険や困難があるかを考え、その対応策を考える。 ・ 防災活動とは万が一の備えをもって災害を最小限に防ぐ取り組みであることを確認する。 ・ 日頃から身近な町や通学路を観察することや、震災時に起こりうる災害と、それに対応するための知識の獲得、体力づくりの大切さを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神淡路大震災ドキュメントビデオ上映 ・ 当時の震災の被害状況について西和消防署の方より講演して頂く。 ・ 防災徒歩帰宅チャレンジに備えて、実際に徒歩で歩く際の注意点を考える。
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員配布用資料プリント(HR指導案) ・ 生徒配布用資料プリント(徒歩帰宅ルートの地図, 帰宅困難者とは、帰宅困難者になったときの心構え、災害時帰宅支援ステーション、災害用伝言ダイヤル「171」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクリーン・プロジェクタ ・ マイク
場所	教室	体育館

VI実践後

<p>参加者への アンケート結果</p>	<p>① 奈良県でも地震が起こる可能性があることを知っていますか？ （ はい94% ・ いいえ6% ）</p> <p>② 自宅周辺の広域避難場所知っていますか？ （ はい58% ・ いいえ42% ）</p> <p>③ 震災発生時の、家族の集合場所は決まっていますか？ （ はい25% ・ いいえ75% ）</p> <p>④ 家庭では非常用食料等を準備していますか？ （ はい21% ・ いいえ79% ）</p> <p>⑤ 災害伝言ダイヤルを知っていますか？ （ はい33% ・ いいえ67% ）</p> <p>⑥ 実際に歩くとしたら、自分は何kmくらい歩けるとおもいますか？ 5 km 11%・ 10 km 15%・ 15 km 15%・ 20 km 15%・ 20 km以上 44%</p> <p>⑦ 自宅まで歩いて帰ることができると思いますか？ （ はい85% ・ いいえ15% ）</p> <p>※ 回答率を%表示</p> <p>Q、 今回の防災徒歩帰宅チャレンジではどのようなことに注意して歩こうと思っていますか？</p> <p>A、 地震が起こったときのことを考えながら歩く 帰り道の目印などを覚えながら歩く 話したりふざけたりして歩かない 地震が起きたときの状況を考える 怪我をしないように注意する 水分をしっかりとる 列を守る ペースを考えて歩く 安全な道を探す 班で固まって行動する 体力の消耗を考えて歩く 地盤や地形など二次災害が起こりうるか 工事をしているところがないかを見ながら歩く 体力にあわせてゆっくり確実に歩く トイレの有無に気をつける</p>
--------------------------	--

成果として 得たこと	<p>実際に、震災が起こった場合を想定し、防災教育を実践してきました。具体的に、防災学習ホームルーム・防災講演を通して地震の発生メカニズムや種類などを知識として学習し、地震とは起こってから対応するものではなく、防災教育の必要性を実感しました。</p> <p>もし震災により帰宅困難者になった場合、自分たちがどのように対応するべきかを考え・判断が出来るようにと学習を進め、震災時の適切な行動を、『防災徒歩帰宅チャレンジ』の体験を通して考え、自ら行動出来ることを目標に学習しました。特に、『防災 徒歩帰宅チャレンジ』の体験を通して、先ず、自らの命を守る能力を学ぶことが出来たと思います。</p> <p>また、各家庭で防災マニュアル（緊急連絡先・家族の連絡先・親戚知人の連絡先・家族のデータ・避難場所）を作成し、家庭・地域への防災意識の普及が進むように取り組めたとします。その成果が、家庭でのアンケートにおける非常用食料等の準備率の上昇にもつながりました。</p> <p>今後も、学校教育だけにとどまらず、将来を見据え、生徒達が社会を担う大人になったときのことや家庭・地域への防災意識の向上に、取り組みたいと思います。</p>	
成果物	<p>防災教育ホームルーム指導案・資料 防災徒歩帰宅チャレンジ 実施要項 防災徒歩帰宅チャレンジ 実施について保護者案内 防災徒歩帰宅チャレンジ 事前・事後アンケート 防災徒歩帰宅チャレンジ 参加生徒一覧表、班分け表、緊急連絡先入り名札 防災徒歩帰宅チャレンジ コース別詳細地図</p>	
広報方法	広報した先	NHK奈良、毎日新聞、朝日新聞、奈良新聞
	広報の方法	事前にファックスでマスコミリリースした。
	取材にきたマスコミ	NHK奈良、毎日新聞、朝日新聞、奈良新聞
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	<p>平成18年6月3日付け奈良新聞に掲載</p> <p>平成18年12月12日放映のNHK奈良ニュース番組で防災徒歩帰宅チャレンジの様子を放映。</p> <p>平成18年12月13日付毎日新聞に防災徒歩帰宅チャレンジの記事が掲載</p> <p>平成19年1月17日付朝日新聞に防災徒歩帰宅チャレンジの記事が掲載</p>
	成功点	報道関係者の方々にも、防災徒歩帰宅チャレンジに参加してもらい、生徒達と一緒に帰宅訓練をする中で、より生徒達に近い視点で取材活動に取り組んでもらえた。
	失敗点	

全体の感想と 反省・課題	真摯に受け止められる生徒がほとんどでしたが、知識としての学習にとどまり、現実的に地震災害について受け止められない生徒もいました。	
今後の予定	来年度以降の進め方	学校として「災害に自立的に対応できる子どもの育成」を目標とした教育活動を継続してゆく。
	是非実施してみたい 取り組み	工業高校としてのものづくり教育と、防災教育をリンクさせた活動に取り組んで行きたい。
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災帰宅チャレンジを通して、より具体的な形で防災教育を行うことができた。 	